

どの細長いテープを自由に飾り付けた。甲羅を背に着けて走るとテープが舞い、空気の存在を感じられる。

園児たちはペットボトルから響く音やひらひらと舞うテープの動きを楽しみながら駆け回り、参加者に元気な姿を見せた。

難聴診断と治療 理解深める講演

7日、前橋

NPO法人難聴者支援センター（高崎市高関町）は7日、前橋市日吉町の前橋商工会議所で第4回市民講座「難聴の診断と治療の進歩」を開く。

慶応大医学部の小川

都教授が「耳鳴じなりは治せるか？」、虎の門病院聴覚センター前センター長の熊川孝三さんが「人工聴覚機器の進歩」と題して講演する。

難聴者支援センターは群馬大の古屋信彦名誉教授が理事長を務め、聴覚障害の早期発見に必要な支援事業や、感覚障害者に対する理解を深める活動を行っている。

講演では要約筆記、磁気テープ、手話通訳を用意する。

午後1時開演。入場無料。希望者は直接会場へ。問い合わせは同センター事務局（☎0120・05・4133）へ。